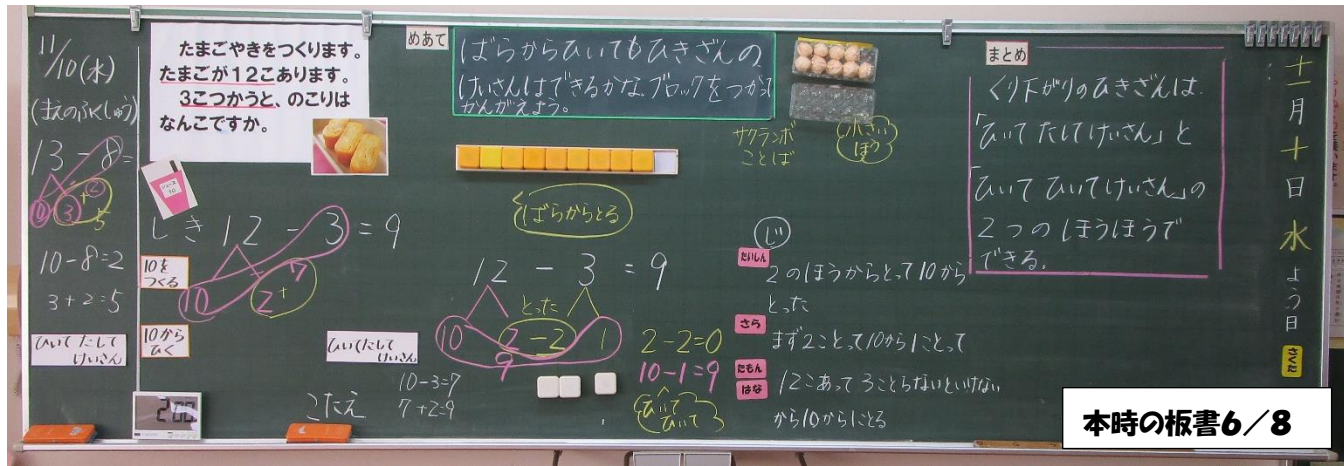


11月10日(水)は、谷本先生による算数科の研究授業でした。本単元は、「ひきざん」で、本時は減減法にあたる場所でした。授業と事後研究の様子をお知らせします。本時は、6/8時間目です。

**単元名 「ひきざん」 全8時間 1年2組 谷本 明郁 教諭**

**身に付けさせたい力：**○減法の意味について理解し、それらが用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりする力  
○数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり日常生活で生かしたりすることができる。



開いている卵パックから2ことったから、ブロックでは…



ブロックをどうやって動かすといいのかな。

### 授業者のリフレクションシートより

- 主・対**・自力思考で難しいと感じたときにペアやグループになり話し合い活動を入れると全員が参加した授業にすることができると思った。
  - ・ホワイトボードを使用しどのように考えたか自分の考えをもたせることで主体的な学びを狙った。
- 課題**・卵パックを使用することで日常をイメージしながら学習に取り組むことができ、日常生活で使ってみようとする意欲向上を促すことができた。
- 見・考**・具体物や半具体物を使用することでイメージを持ちながら考えることができた。

### 授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習の設定**
  - ▼めあての理解が全体で共有しきれていなかった。
  - ▼個人思考、ペア学習の時間をもっと取りたい。
  - ▼ブロック、式、言葉などの解決方法を子ども達それぞれに任せてもよいのではないか。
- 2 児童が本気になる課題の工夫**
  - 生活場面からの問題設定がよかった。
  - 卵パックを使って、バラに目を向けさせることで既習との違いを引き出すことにつながった。
- 3 「数学的な見方・考え方」を働かせるための手立て**
  - 児童は、言葉での説明ができていた。
  - ▼言葉での説明ができていたので、その発言を生かしてさくらんぼ計算や式につなげたい。
  - ▼もっとブロック操作をして確認する時間を取るとよかった。
  - ▼「まず」「つぎに」などのつなぎ言葉を使って、説明の一文を区切り、ブロック操作につなげるとよい。
    - ブロック操作⇔言語化
  - ▼「大きい方」「小さい方」ではなく「10」と「ばら」の言葉で説明させたい。
  - ▼既習の減加法との違いをブロック操作で確認するとよかった。
    - 次時では、減加法と減減法の違いが分かるように板書等をしていくとよい。

### 奥谷 指導主事より(本単元・本時の学びのポイント)

- 学習指導要領をもとに単元終了時のめざす児童の姿を設定する。
- 見方・考え方の成長を意識する。
  - ・既習をもとに考えることが大事。今回であれば「ばらからとる」減減法は、減加法と比べて、10のまとまりから引くのは同じだが、引くタイミングが違う。→統合的な見方につなげる。
  - ・本時では、「なぜ3を2と1に分けて、12の2からとったのか」と尋ねてもよかった。
  - ・ブロック操作をノートに書くことへ繋がった。
- 数学的な活動を充実させる。
  - ・授業が学習指導要領解説(P.8)にある学習過程の図のどれに位置付くのか考えることが大事。
  - ・「一応の結果」を振り返る時間も大切にしたい。
  - ・具体物、場面、式をつなげて考えられるように他の児童にも説明させ、全員が分かるようにする。1つ1つの操作を対応させて活動させたい。

今回は、減減法について学習するために、卵パックを活用して「ばら」に目を向けさせることにつながる導入でした。日常生活の場面と結び付けていくこと、ブロック操作をたくさんさせて言葉や式と関連させていくことを大切にしていかなければならないと研究授業を通して改めて学ぶことができました。導入の工夫と子ども達のつづやきを拾いながら授業をされ、2年目の成長を感じる谷本先生でした。

算数科の研究をこれからも授業を通して、学び深めていきましょう！